

仏像仏具・諸堂境内の損傷箇所（一例）



勢至菩薩像。天衣に欠落・損傷。
針金を胴に巻いて固定。



阿弥陀如来像台座。
蓮弁を経巻で固定。



観音菩薩像。持物の蓮が欠失。
胸飾りも失われ、天衣も損傷。



善導大師像。光背が自立できず像本体に倒れかかる。



法然上人像。光背が自立できず像本体に倒れかかる。



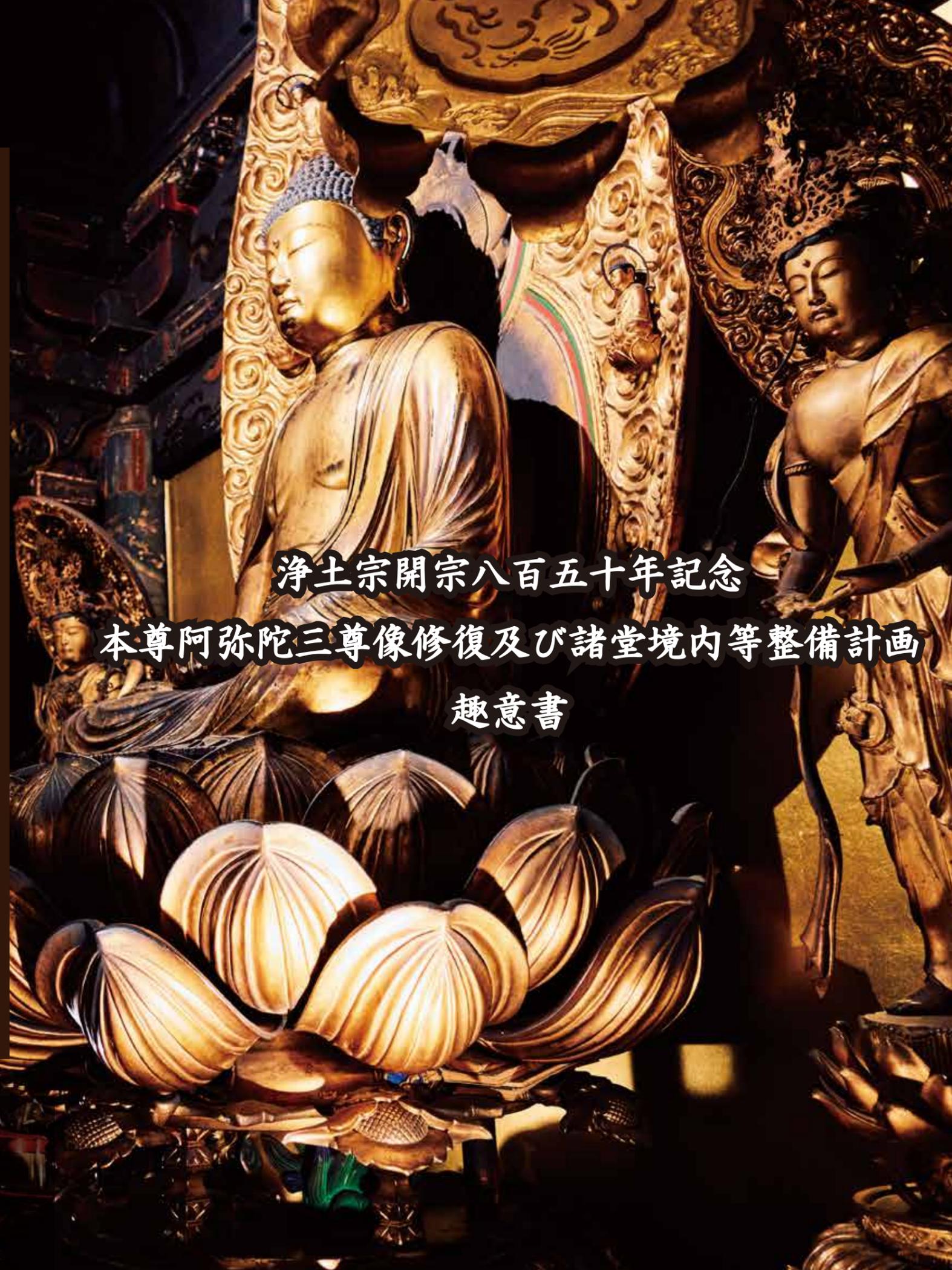
庫裏外壁（黒門通沿）。
損傷と膨張が見られる。



境内外壁。漆喰壁の損傷は
随所に認められる。



常花。茎が折れて針金で接合されている。



浄土宗開宗八百五十年記念
本尊阿弥陀三尊像修復及び諸堂境内等整備計画

趣意書

浄土宗開宗八百五十年記念

本尊阿弥陀三尊像修復及び諸堂境内等整備計画 趣意書

聖号十念

時下益々ご清栄のことと存じます。平素より龍岸寺の護持にご協力を賜り御礼申し上げます。

さて、法然上人は、比叡山での二十八年に及ぶ修学を終え、承安五年（一一七五）に浄土宗を開かれました。爾来、念仏の法灯は時代を超えて人々の心を潤し、本年、開宗八百五十年を迎えたことは、誠に慶賀の至りです。

龍岸寺では、この法灯をゆるぎなく次代に継承していくため、浄土宗開宗八百五十年記念 本尊阿弥陀三尊像修復及び諸堂境内等整備計画を実施する運びとなりました。

現在の本堂は、貞享三年（一六八六）に再建されており、堂内の仏像仏具の多くが同時期にさかのぼると考えられます。経年による損傷は随所に認められ、御本尊の蓮台の一部は自立できず、右脇侍・観音菩薩の持物は失われ、左脇侍・勢至菩薩の天衣と光背は崩落寸前の状況にあります。

庫裏及び書院についても、大屋根を除き内外部の大規模な補修は約半世紀にわたって施されておらず、近年は、外壁の剥落や漏水等への応急措置を絶えず余儀なくされ、抜本的な改修が避けられません。

整備計画には来春より着工し、約三年間かけて、上記の諸問題の対応にとどまらず、諸堂の内外部の補修・修繕・改装、境内及び墓地参道の整備等を行います。

つきましては、本事業趣意へのご賛同と寄付のご協力をお願い申し上げます。

寄付は年一口一万円といたします。ご協力いただける方は、可能な口数を五期にわたって継続的にお納めいただければ幸甚です。五期分一括でのご寄付も承ります。

当寺の益々の発展のため、何卒ご理解を賜りますよう、伏してお願い申し上げます。

合掌

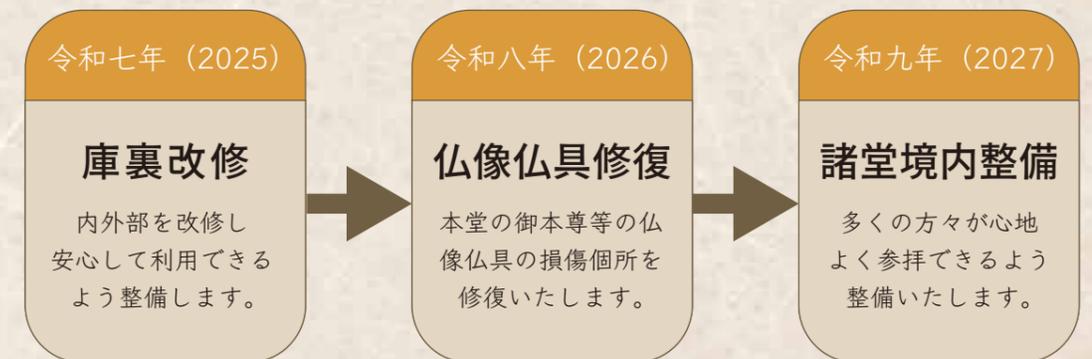
令和六年十二月佛歡喜日

浄土宗 三哲山 龍岸寺 住職 池口龍法
筆頭総代 橋本光弘
総代 榎 和哉
総代 榎 真史
講中 本城徹也

勸募金額 総額 3,500 万円

上記のうち、住職及び先代住職が2,000万円を寄付いたします。
檀信徒の皆様には、1,500万円の勸募にご協力をお願い申し上げます。

整備計画と工期



※ 工事期間中、ご不便とご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご理解ください。

勸募期間

第一期：令和七年一月より令和七年十二月まで

第二期：令和八年一月より令和八年十二月まで

第三期：令和九年一月より令和九年十二月まで

第四期：令和十年一月より令和十年十二月まで

第五期：令和十一年一月より令和十一年十二月まで

別紙申込書に、ご氏名等をご記入のうえ、お申込みください。
ご寄付いただいた方のご芳名は、期別に寺院内に掲示させていただきます。

なお、本趣意書は、整備計画へのご寄付を強制するものではありません。
ご賛同いただけます場合には、ご協力のほどお願い申し上げます。